

No.	意見反映前ページ	最新版ページ	内容	委員	反映	反映内容
	全体		※目次、表番号、グラフ番号、段落の位置、フォント、西暦・和暦などは最終的に整理します		未	最後にまとめて精査必要
1	15	16	からの減少率が少ないのも →以降も維持されているのが	遠藤	済	文章を修正
2	25	27	「や関連する施設」 まわりくどい表現。自然の家、西谷の森公園のどちらかは環境体験施設という位置づけでは問題がある？	遠藤	済	まわりくどい表現であり、また、2施設以外のことも記載したので、1行目を削除しました。
3	27	28	「8割は私有地」：山林の状況のところで既述。この文脈では不必要では。 (例) 森林は南部の台地部では開発によりほとんど消失していますが、北部の山地・丘陵地は森林に覆われており、市域の約65%の面積を占めています。 次いでアカマツーモチツツジ群集が38%で⇒次いで38%がアカマツーモチツツジ群集	遠藤	済	文章を修正
4	28	29	「武庫川峡谷、その下流部（南部平坦地域）や川下川、惣川、最明寺川などが挙げられます」 →何に「挙げられる」のかを述べる必要あり。市域の代表的な河川として？重要な河川の生息場所として？	遠藤	済	武庫川峡谷では貴重な植物が集中する渓谷の生態系が成立しています。 →冒頭に「貴重な生態系を持つ河として」という表記を入れたのでこの表記を削除
5	28	29	「生育」→「生息」	遠藤	済	文章を修正
6	34	38	「生態系保全や地域の暮らしを守るため」 →「生態系や地域の暮らしを守るため」 or 「生態系を保全し地域の暮らしを守るため」	遠藤	済	文章を修正
7	37	41	「雑木林が広がり、その名残として」→「雑木林の名残として」	遠藤	済	文章を修正
8	38	41	「ギフチョウのコラム」 幼虫の食草であるカンアオイ類の分布が限定的であること、土地開発や里山林の放置、さらにシカによる食害や採集圧によって、自然個体群の存続基盤はきわめて脆弱化しており、生息地保全が急務となっていることも追記する。	遠藤	済	文章を修正
9	39	43	「特定外来生物が14種+条件付き特定外来生物2種、要注意外来生物が34種確認されており、」 →P.33(※最新版P.37)の表の数字と齟齬あり	遠藤	済	37ページの表を修正。要注意外来生物の表記削除。文章を修正
10	45	46	「他の部局計画」 →みどりの基本計画、農業振興計画など生物多様性戦略と関連の深いものについては具体的に挙げておいた方がよい	遠藤	済	具体的な計画名を追記
11	48	49	「オオキンケイギクについては、逆瀬川で継続的に駆除を実施しています。」 →仁川も宝塚市域に含まれるところがある。	遠藤	済	文章を修正
12	54	56	「より一層の普及・啓発に努め、生物多様性への関心と理解が深まるよう、緑に関する取組の向上を図る」 →「より一層の普及・啓発を通じて、多様な生物を育むよう、緑の質を高める取組みを図る」	遠藤	済	文章を修正、表の形式に記載修正
13	54	56	P.48(※最新版P.49)にある「都市の生物の生息環境のネットワークの形成」の記述がないので、その点を深める。上記の「まちの中に自然を再生」は緑の質と量を増やす取組み、「ネットワーク形成」は緑(生息環境)をつなぐ取組みであることを意識して書き分ける。	遠藤	済	文章を修正、表の形式に記載修正
14	54	56	「クマの生息域拡大やシカ・イノシシなどの増加についても考慮する必要があります」 →宝塚市域で実際にクマの生息拡大を心配する必要があるか疑問。文意が不十分なので、「一方で、河川敷等の連続性がシカ・イノシシなど有害獣の市街地への侵入経路となる可能性も留意する必要があります。」など。 とくに都市部ではいわゆる「緑の回廊」など生物の移動性を促進する生息地の連続性は、生物多様性保全の重要なポイントであり、施策を安易に後退させるような書き方になってはならないと考えます。	遠藤	済	文章を修正、表の形式に記載修正
15	55	56	「森林の防災機能の低下は、…」 →文章が唐突。「シカによる森林植生の食害が進むと・・・」などの文章を補わないと、文脈がわかりません。	遠藤	済	文章を修正、表の形式に記載修正
16	59	60	「武庫川峡谷にはツメレンゲやサツキなど渓流や岩場を適地とする植物が多数生育し…」 →畦などに生育するヒメカンアオイその他の植物、それらに依存しているギフチョウなども特筆すべき。	遠藤	済	文章を修正
17	60	61	「イノシシやシカなどが増加し、農業被害や林業被害…」 →生態系そのものへの被害も強調する必要あり。	遠藤	済	文章を修正
18	63	64	逆瀬川、仁川での特定外来生物オオキンケイギク駆除の取組みの記述	遠藤	済	文章を追記
19	23, 67, 73	23, 68, 74	P.67「16%」、P.73「16.45%」 →この数字の根拠を明記する。p.23表2.3-1の面積の合計がこの数字の根拠になるのか？それならその箇所でも明記してほしい。	遠藤	済	23ページに根拠を記載する。 16.45%→6.25% 県有環境林は県環境政策課に確認したところ、自然共生サイトへの認定は検討しておらず、保護区等から除外した。
20	73	74	「市内の重要な生態系区域（スポット等）の自然共生サイトへの指定を推進し、30by30を実現します。」 →市が主体となって自然共生サイトの申請に向かって動くという理解でよいですか？	遠藤	済	市として事業者等とともに推進していきたい。 文章修正「30by30の実現に向けて、～自然共生サイトの認定を推進します」
21	77	78	災害級の猛暑に対する、緑の遮熱効果、冷却効果なども書き込んでほしい？（やることは市街地の緑化推進と同じなので）	遠藤	済	文章を修正

No.	意見反映前ページ	最新版ページ	内容	委員	反映	反映内容
22	77	78	「点在する里地里山に残存する…」 →「・・・及び市街地に残された里地里山の生物多様性」でいいのでは？	遠藤	済	文章を修正
23	79	80	「宝塚自然の家」→今以上に生物多様性保全を推進する機能を担ってくれるとい いのですが・・・。	遠藤	済	「自然の家などの市内施設等」に変更
24	80	81	「自然共生サイトとして認定される取り組みを推進」 →市（環境・エネルギー課）が率先して動ける体制を整備することが急務では。	遠藤	済	文章を修正 「重要な生態系スポット等において、関係者と連携し、自然共生サイトの認定を推進します」
25	全体	全体	キツネ タヌキにも→ホンドギツネ ホンドタヌキなど種名は統一した方がいい と思います。（メール本文）	今住	済	文章を修正
26	全体	37ほか	侵略的外来種（外来生物？）については、 特定外来種（外来生物？）も含む（部分改訂）でややこしいかと思ひます。改 定に伴い、「要注意外来種」は使わなくなっているようです。（生態系被害防止 外来種になった？）産業上問題があるので、農水省からクレームがあった？ハリ エンジュ（ニセアカシア）などが蜂蜜の蜜源として大事。問題ありとは思ひます が・・・（余談） 侵略的外来種（外来生物？）を連絡するとすると、 セイタカアワダチソウやハリエンジュも連絡しなければならぬことにな ります。それもいいかもしれませんが、特定外来種に限定してはどうでしょ うか？	今住	済	37ページの表など、要注意外来種の記載は削除 し、特定外来生物、条件付き特定外来生物の記 載に修正
27	8	9	「宝塚市農業振興計画」→残してください	今住	済	記載を残す
28	9	10	北摂山地も神戸市と関連	今住	済	文章を修正 神戸市も北摂山地に含める
29	12	13、45	「西谷地区のため池の多くは農業かんがい用として利 用されています」 →未利用になった野池の問題は？	今住	済	P 45（スポット調査結果）にて、未利用になっ た野池について言及
30	18	19、60	「宝塚新都市県有環境林の活用」 →宝塚市はどうするか？県任せ？	今住	済	文章を修正。60ページにて県有環境林につい ての記載を追記。
31	18	19	「農業産出額」→産出額というのがやはり違和感あり	今住	済	「2.1.3 土地利用」の章に記載されているので 違和感。本文を修正し、産出額のグラフはここ から省く
32	30	31	大岩ヶ岳 →大岩岳	今住	済	本文中は「大岩岳」となっているので合わせる
33	31	32	丸山湿原や松尾湿原が複数箇所記載	今住	済	表を修正。分けて記載する
34	33	37	要注意外来生物→生態系被害防止外来種 今はこの言葉使わない	今住	済	37ページの表を修正。要注意外来生物の表記削 除。文章を修正
35	38	42	モノアラガイは普通にいない	今住	済	文章を修正
36	38	42	環境省レッドリストのカテゴリー区分、I類も記載（カテゴリー全部？）	今住	済	文章を修正（I類も記載）
37	39	43	要注意外来生物→2015年3月26日をもって「生態系被害防止外来種」に変更	今住	済	37ページの表など、要注意外来種の記載は削除 し、特定外来生物、条件付き特定外来生物の記 載に修正
38	45	46	環境基本計画 「見直しを行っているところです」 →どちらが先に策定される？	今住	済	文章を修正。環境基本計画、生物多様性戦略の 両方が改定されて世に出た後の想定で書く
39	59	60	「亦楽山荘は櫻守の会により保全管理されています」合ってるか	今住	済	確認済み
40	59	60	「武庫川峡谷周辺を中心として、エコグループ・武庫川により、武庫川流域の自然 環境、歴史、文化、風土の調査や、エコバスガイド、エコバイクのガイドが行 われています。」合ってるか	今住	済	確認済み エコバスガイドはやっていない
41	71	72	「侵略的外来種」？→侵略的外来生物？特定外来生物？	今住	済	侵略的外来種の記載のままとする。P75は「侵 略的外来種のうち特定外来生物」と明記する
42	75	76	森林環境譲与税はぜひ残していただきたい。野生生物の管理以外にも。	今住	済	78ページに森林環境譲与税の活用について言及
43	78	79	「生物多様性に配慮した農業」 →有機 無農薬 減農薬農業 を明記	今住	済	文章を修正。農の魅力創造課にも確認済み。
44	80	81	「OECMへの登録推進」 →自然共生サイト認定・OECMへの登録推進	今住	済	文章を修正。「自然共生サイト」を採用。

No.	意見反映前ページ	最新版ページ	内容	委員	反映	反映内容																
45	全体	44、45	戦略検討の前提であるスポット調査の結果まとめで。	栃本	済	44～45ページに文章を追記																
46	全体	目次	さっぱりしすぎていて、どこに何が書かれているかわかりにくい。	栃本	未	最終的に調整します																
47	18	19、59	「今後、山林の生物多様性を維持するためには、県内最大規模である宝塚新都市県有環境林の活用等が考えられます。」とあるが、県有環境林に限らず、私有林や国有林の適正管理も重要であり、ここで取上げて記載する必要はない(表2.1-1から私有林の方が面積が大きいことがわかる)。	栃本	済	19ページの記載は削除。 59ページに北摂里山地域循環共生圏事業について追記																
48	18	19	「住宅地や企業の敷地など緑の少ない地域における生物多様性保全の取り組みとして、地域性種苗を用いた敷地内の緑化や屋上緑化が目まされています。」とあるが、現状説明において記載する必要はないのでは。住宅地や企業の敷地で「緑が少ない」と言い切れないし、住宅地における敷地内の緑化や屋上緑化が目まされているか明確でない(マンションなどでの取り組みは一部進んでいるもの)。 これらは、過去の策定委員会においても委員長から指摘のあった内容であり、例えば次のページの「環境に配慮した農業の振興」なども同様で、全体的に修正されたい。必要な取り組みについては、後半の施策のページに明記すること。	栃本	済	屋上緑化については言い切れない取組なので削除。 19ページの環境に配慮した農業の振興についても記載を削除し、78ページの具体的取組のところに記載																
49	21	21	「都市のみどりとして存在した土地が宅地化されることにより、生物多様性が失われる恐れがあります。」とあるが、「宅地面積が拡大し、市街地に残された森林の破壊が進んでいる」という事実を記載する必要があるのでは。	栃本	済	「市街地に残された森林の破壊が進んでいる」という事実も記載																
50	23	23	表2.1-3の並びは、法による保護区域(国立公園、鳥獣保護区、緑地保全地域、保安林)、条例による保護区域、自然共生サイト(OECM)とするのがわかりやすいのでは。武庫川の水質基準は保護区域等には当てはまらないので、この表に記載されているのは違和感。 表2.1-4も国指定→県指定→市指定の順がわかりやすい。	栃本	済	武庫川の水質基準は記載を削除。表の記載順を修正。 2.1-4も修正。																
51	24	26、27	自然環境資源：見出しの項目名、各記載内容ともよくわからない。「自然とのふれあいの拠点」のような意味合い？ 特別緑地保全地区は保護区域で記載しては。 宝塚自然の家については、子供の自然体験の拠点として学校の授業等に活用されていることや、松尾湿原についても触れるべきでは。 丸山湿原でも子供たちの受け入れなどされているが、書かなくてよい？ きずきの森については、重点施策として取り上げるのであれば、ここで説明はなくてもよいかと。	栃本	済	「自然とのふれあい」に見出しを修正。「市民が直接自然と触れ合える場がある」と本文に追記。 宝塚自然の家が子供たちの校外学習に活用されていること、松尾湿原、丸山湿原についても追記。 きずきの森は後半の施策の箇所にも出てくるが、紹介文としてここに残す。																
52	34	38	生体系 ⇒ 生態系	栃本	済	文章を修正																
53	39	43	エフクレタヌキモは、沈水生ではないのでは。	栃本	済	文章を修正																
54	39	43	アライグマに関する説明文が長く、主語述語の関係が不明瞭。他種も含めて、個々の生物種についての説明は簡潔にしてはどうか。	栃本	済	説明を簡潔にした																
55	41	34	生態系→動植物種→宝塚市生態系RDBという順に違和感がある。宝塚市生態系RDBは生態系の中に含めるべきでは。 モニタリング結果(スポット調査の結果)は別にまとめて、(1)生態系、(2)生きもの、(3)モニタリング結果の順で掲載してはどうか。	栃本	済	(1)生態系の@宝塚市レッドデータブックとし、@兵庫県版レッドデータブックに続く形で記載。																
56	45	46	市域における取り組み → これまでの取り組み などでは？	栃本	済	これまでの取組に修正																
57	54	56	市域における課題 → (例えば) 振り返りと課題 現行戦略の取り組みが見出しになっているので、今後の取り組みのことが書かれているのかと勘違いしてしまう。例えば、次のような表にまとめるとわかりやすい。 課題については、スポット調査の結果や保全体制について今一度振り返り、記載内容を再考することが必要と思われる。 (案) 前戦略の行動方針・基本施策の振り返りと取り組み課題 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>行動方針</th> <th>基本施策</th> <th>振り返り</th> <th>課題・方針</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>郷土の生物多様性の保全・再生を促進・再生する</td> <td>1. 生態系 再生</td> <td>貴重 な種及び生態系の保全</td> <td>●松尾湿原や丸山湿原群などに貴重な生態系は健全に保全されています。 ●一方で、比較的身近にある自然の保全は十分に行き届いていない。</td> </tr> <tr> <td>宝塚市の生物多様性の把握</td> <td></td> <td>●生態系スポット調査により、市内の生態系や生物種の情報を収集(現状と課題の把握にとても役立った) ●情報の精度が十分でない部分があった。</td> <td>●継続的なモニタリングが重要 ●調査の効率も意識しながら、情報の精度を高める。</td> </tr> <tr> <td>生態系ネットワークの形成促進</td> <td></td> <td>●どうだったのか？</td> <td>●さらなる 分断化を抑制しなければならない。 ●緑地の創出や河川の横断構造物撤去等によりネットワークの再形成を図る必要がある。</td> </tr> </tbody> </table>	行動方針	基本施策	振り返り	課題・方針	郷土の生物多様性の保全・再生を促進・再生する	1. 生態系 再生	貴重 な種及び生態系の保全	●松尾湿原や丸山湿原群などに貴重な生態系は健全に保全されています。 ●一方で、比較的身近にある自然の保全は十分に行き届いていない。	宝塚市の生物多様性の把握		●生態系スポット調査により、市内の生態系や生物種の情報を収集(現状と課題の把握にとても役立った) ●情報の精度が十分でない部分があった。	●継続的なモニタリングが重要 ●調査の効率も意識しながら、情報の精度を高める。	生態系ネットワークの形成促進		●どうだったのか？	●さらなる 分断化を抑制しなければならない。 ●緑地の創出や河川の横断構造物撤去等によりネットワークの再形成を図る必要がある。	栃本	済	改定案として書いていた文章をベースにして表にまとめました。
行動方針	基本施策	振り返り	課題・方針																			
郷土の生物多様性の保全・再生を促進・再生する	1. 生態系 再生	貴重 な種及び生態系の保全	●松尾湿原や丸山湿原群などに貴重な生態系は健全に保全されています。 ●一方で、比較的身近にある自然の保全は十分に行き届いていない。																			
宝塚市の生物多様性の把握		●生態系スポット調査により、市内の生態系や生物種の情報を収集(現状と課題の把握にとても役立った) ●情報の精度が十分でない部分があった。	●継続的なモニタリングが重要 ●調査の効率も意識しながら、情報の精度を高める。																			
生態系ネットワークの形成促進		●どうだったのか？	●さらなる 分断化を抑制しなければならない。 ●緑地の創出や河川の横断構造物撤去等によりネットワークの再形成を図る必要がある。																			

No.	意見反映前ページ	最新版ページ	内容	委員	反映	反映内容
58	57	58	地域ごとの課題：基本施策の後に移動させて、これからも取り組みも含めて記載しては。	栃本	修正しない	「地域ごとの課題」には各地域の現状や取組を踏まえての課題の記載という構成になっており、基本施策の前に記載されている方が自然な流れだと考えます。
59	58	59	ここでは不要では。このページを使用するなら、P14あたり。	栃本	修正しない	この図そのものに課題が述べられている訳ではないが、次のページ以降への入口としてこのまま記載する
60	73	74	自然共生サイトの認定推進も大切であるが、生物多様性の保全が図られることが本来の目的である。①豊かな生物多様性が維持されている場所が自然共生サイトに認定されることを支援し、保全の認識を高め、関わりを増やすとか、②生物多様性が衰退傾向にある場所において保全の取り組みを推進する（生物多様性増進活動計画を作成し、自然共生サイト認定を得る）といった施策を進めてほしい。	栃本	済	文章を修正
61	73	74、77	「また、北部地域の湿原やため池、武庫川峡谷（武田尾峡谷）、西谷の里地里山など、多様な生物が生息・生育する地域を中心に、動植物の生存環境を保全します。」とあるが、市街地の緑地の保全・創出も優先度は高いのでは（消失リスクが高い、得られる効果が大きいなど）。→P76で明記するかたちでもよい。武庫川峡谷は衰退のリスクが小さいので、重点的に取り組まなくてもよい。ダムの話があれば問題だが、その場合は県がしっかり対処すべき。生存環境→生育・生息環境？	栃本	済	文章を修正。また、76ページに追記。 市街地の緑地は、開発等による消失リスクが高い一方で、生物の生息空間の確保や暑熱緩和、景観形成など、多面的な効果が期待できることから、その保全・創出の優先度は高いものと位置づけられます。
62	75	76	「希少な野生動植物の保護管理」のためにすべきことは他にないか。市内で絶滅リスクの高い動植物種としてどのようなものがあるか、それに対してすべきことは？ 情報収集が必要？・・・とすれば、どのような種を情報収集のターゲットとするか？	栃本	済	文章を修正
63	75	76	「有害な」と記載するのは不適切であるため、「野生鳥獣の適正管理」という表現に改めてはどうか。	栃本	済	文章を修正
64	77	78	森林環境譲与税を活用した森林整備や、災害に強い森づくり（県民緑税事業）を推進する。という内容を明記した方がよい。	栃本	済	文章を修正
65	77	78、79	森林資源（用材、燃料など）の活用についても触れてほしい。	栃本	済	79ページ(3)生態系に配慮した産業の推進の箇所に追記
66	80	81	OECM→自然共生サイトか（名称が残ったため）。生物多様性増進活動計画のことにも触れた方がよい。	栃本	済	文章を修正